

見本

災害時にどう行動するか

患者さん用防災の手引き

目 次

	ページ
はじめに.....	1
1. 当院で想定している災害.....	1
2. 当院の災害対策.....	2
3. 災害発生時の対応.....	3
(1) 患者さんが透析中.....	3
(2) 患者さんが自宅または職場にいるとき.....	5
4. 当院で透析ができなくなったときの対応.....	6
5. 患者さんの食事・薬管理.....	6
6. その他の注意事項.....	7

透析施設名	笛木内科医院
所在地	岡山市庭瀬183(〒701-0153)
施設長名	笛木 久雄
透析主任医師名	笛木 久雄
防災責任者名	西浪 常夫 大橋 一雄
電話番号	代表(災害用伝言ダイヤル登録番号) (086) 292-0033 災害時優先電話 (086) 293-3455 携帯(i モード災害用伝言板登録番号) 090-6841-8525

はじめに

1995年1月17日に起きた阪神・淡路大震災、さらに2004年10月23日の新潟県中越地震は透析患者の皆さんに、災害時に透析を受けられるだろうかと大きな不安を与えました。

皆さんは地震や津波など災害に関心をお持ちだと思いますが、災害に直面したらどうしてよいかわからないという人がほとんどだと思います。

この『防災マニュアル』は、災害にたいし当院がどういう対策を立てているか、災害が発生したら皆さんがどう行動したらよいかなどを説明しています。日頃から、いざという場合を想定して、このマニュアルをよく読んで災害に備えてください。

1. 当院で想定している災害

当院では地形や交通事情から、次の災害を想定しています。

1. 地震
2. 火災
3. 洪水

2. 当院の災害対策

(1) 貯水タンクと給水タンクの設置

水道が断水しても 27 台の人工腎臓で 4 時間透析が 2 サイクル 4 日間できます。

(2) 透析に必要な医療材料や薬品の備蓄

通常透析の 7 日分を備蓄しています。

(3) 透析装置や水処理装置の固定化または転倒防止、配管の柔軟接続

(4) スタッフの防災教育

(5) スタッフによる患者を含めた防災・避難訓練

(6) 当院からの避難場所を①センター、②笛木内科駐車場、③吉備小学校グラウンドとする。

(7) 災害時のスタッフおよび患者との緊急連絡網の整備

(8) 当院で透析ができなくなったときの周辺施設や関連施設との支援協力体制の確立

3. 災害発生時の対応

(1)患者さんが透析中

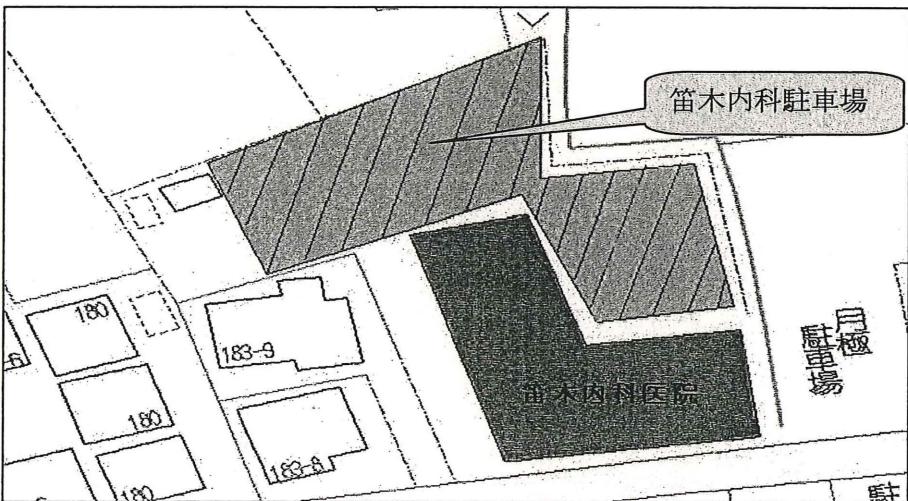
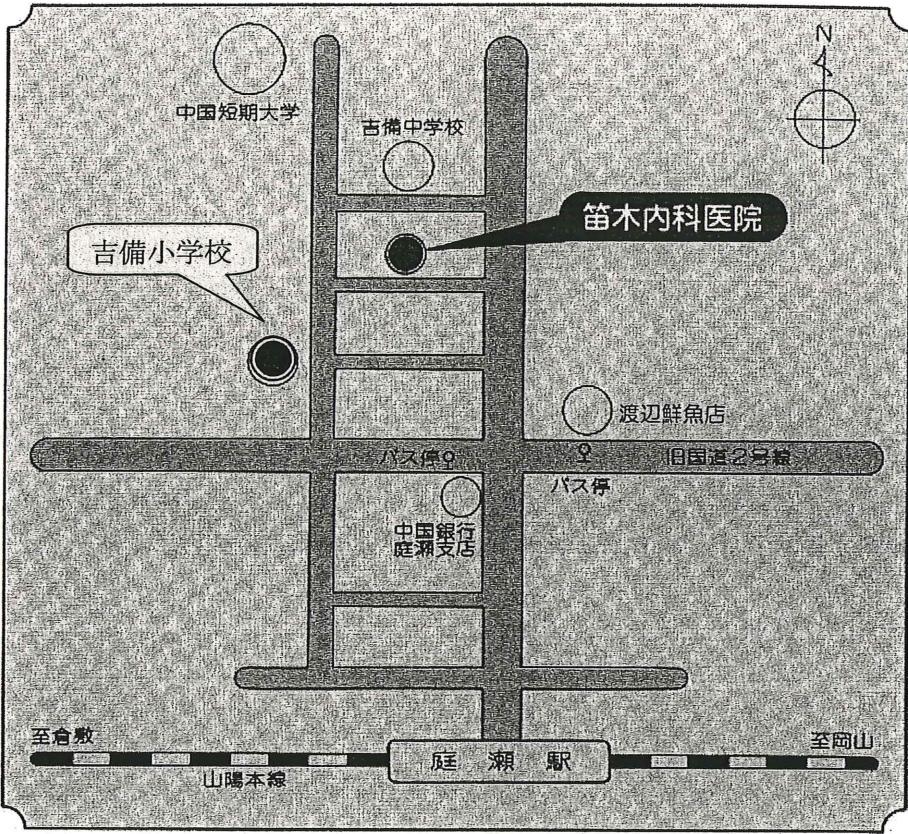
①地震

- ・注意報や警戒警報が発令された場合、スタッフの指示に従って冷静に行動してください。
- ・地震で揺れだしたら、以下の順序で身を守ってください。①動静脈の回路を握る、②オーバーテーブルを遠くに動かす、③落下物から身を守る為に布団を頭までかける、④ベットの柵を握る。
- ・停電になったら、備蓄懐中電灯を配備します。
- ・医師の指示で透析を中止することがあります。血液回路からの離脱や返血、避難はスタッフの指示に従ってください。
- ・避難誘導は独歩の患者さんより始め、ガラス片による外傷を防ぐ為履物を必ず履きます。
- ・車椅子または一人で動けない患者さんはスタッフが背負うまたは担架などで避難場所へ誘導します。
- ・避難をする際エレベーターは使用せず階段を使用してください。

②火災

- ・火災発生と同時に警報（ベル）が鳴り、発見者からの報告で状況が院内アナウンスされます。
- ・スタッフにより消防署への通報、初期消火活動、皆さんの避難準備などが行われます。
- ・透析中止および避難の指示が出たら、血液回路からの離脱方法に従つて離脱し、スタッフの誘導に従って定められた避難場所に行ってください。
- ・防火とびらが閉じられ、日常使っている階段が通れない場合があります。スタッフの指示に従ってどちらかの階段を使ってください。
エレベーターは使わないでください。
- ・避難場所でスタッフが、けがの手当をします。

当院の避難場所



③洪水

- ・気象情報や河川の増水状況が院内アナウンスされます。
- ・洪水が発生した場合や発生しそうな場合、医師の指示で透析を中止することがあります。血液回路からの返血や離脱はスタッフの指示に従ってください。
- ・スタッフにより皆さんの避難準備が行われます。スタッフの誘導に従って定められた避難場所に行ってください。

(2)患者さんが自宅または職場にいるとき

- ・当院に電話または公衆電話で連絡をとってください。公衆電話は停電時、カードは使えません。硬貨を用意してください。
- ・当院が透析可能で来院が可能であれば、当院に来てください。透析終了後帰宅できない場合に備えて、食料や衣類をお持ちください。
- ・車で来院時道路の通行止めに出合ったら、警察で「緊急車両」扱いを受けてください。自力で来院できない場合、消防署や警察に身体障害者手帳や「患者カード」を提示して事情を話し、当院への搬送をお願いしてください。
- ・当院と連絡がとれない場合、NTT「171」災害用伝言ダイヤルを利用して下さい
- ・ラジオ、テレビで施設情報を放送することがあります。電話が不通の場合、携帯ラジオで施設に関する情報を得てください。

災害用伝言ダイヤル「171」の利用方法について

- ① まず、171にダイヤルして下さい。以下アナウンスに従って登録して下さい。
- ② 2をダイヤルして下さい。
- ③ 086-292-0033（笛木内科）をダイヤルして下さい。
- ④ 透析可否のメッセージを聞いてください

4. 当院で透析ができなくなった時の対応

- 当院が透析不能の場合、岡山県医師会透析医部会 災害対策本部のネットワークを利用して、患者の皆さんに他の透析可能な施設への案内をします。
- 当院が透析不能の場合は自宅から動かず連絡が取れるまで待期してください。3~5日間は自己管理に気を付ければ透析なしで十分耐えられます。
NTT 伝言ダイヤル「171」に自分の安否を録音してください。
- 自宅以外の避難所や親類、知人宅へ移動した場合も所在地と安否を NTT 伝言ダイヤル「171」に録音してください。
- 当院で透析が再開できる時は皆さんに当院から連絡しますが、皆さんからも当院に連絡をとってください。
- 災害発生から 3 日以内には連絡が十分とれる状態に一般電話回線が復帰しますので安心して待期してください。

災害用伝言ダイヤル「171」の利用方法について

- ⑤ まず、171 にダイヤルして下さい。以下アナウンスに従って登録して下さい。
- ⑥ 1 をダイヤルして下さい。
- ⑦ 自宅の電話番号をダイヤルして下さい。
- ⑧ 30秒以内に安否の伝言を入れて下さい。

5. 患者さんの食事・薬管理

(1) 食事管理

災害時、透析が予定通りできないときでも、食事と水分を上手に管理すれば余り苦しくならずに数日間は日常生活が続けられます。

- 熱量を適切にとりましょう。
1 日あたり少なくとも 1000~1300 キロカロリーの熱量を、とりましょう。
- 蛋白質を適度にとりましょう。
1 日あたり 25 g 程度の良質の蛋白質(肉、卵、魚)をとりましょう。

透析患者さんにとって通常よりも少ない量です。

- ・ 塩分を少なくしましょう。
1日あたり2～3グラム程度に抑えましょう。通常の半分程度です。
- ・ カリウムを抑えましょう。
高カリウム血症は死に直結します。生野菜、果物等は通常よりも制限しましょう。
- ・ 水分を減らしましょう。
食物中に含まれる水分と飲み水の総量を、1日あたり800ml尿量程度に抑え、体重増加を防ぎましょう。水の摂取を通常の半分にできれば、水に関しては透析間隔を2倍程度にできます。

(2)薬

薬には2日や3日とらなくてもすぐに体に影響がでないものと、1回でもとらないと体に影響が出るものがあります。体に影響のある薬は欠かさずとりましょう。

○体に影響のある薬

- ・ 血圧降下剤
- ・ 心臓薬
- ・ インスリン
- ・ カリウム低下薬

6. その他の注意事項

身近な場所に避難袋を用意しておきましょう。

必ず入れる物

保険証、身体障害者手帳、透析患者カード
常用処方薬、水入りペットボトル、
懐中電灯、携帯ラジオ、携帯食